

ふれあいボランティア活動

感想文集



特定非営利活動法人

さわやか青少年センター

ふれあいボランティアパスポート事業

ふれあいボランティア活動感想文集発行にあたって

さわやか青少年センターは、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合って生きていこうとする「共助の力」）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（ボランティア活動の中でも人とふれあって行うことを特に重視したボランティア活動のこと）は、青少年が『人間力』を育むに最適な活動の一つであると考えています。そのふれあいボランティア活動（以下、活動という）を行うためのツールとして「ふれあいボランティアパスポート（以下、ふれあいパスポート、という）」は平成十二年に公益財団法人さわやか福祉財団で開発され、児童、生徒が行う活動の「きっかけ」や「継続」に有効なツールとして、全国の小中高高等学校、団体等で活用されています。

ふれあいパスポートの特徴は、児童、生徒が活動をして、ふれあいパスポートに活動の記録、感想を書き終えた後に、寄付先欄に記載の社会貢献団体（以下、団体という）の中から応援したい団体を一つ選ぶと、ふれあいパスポートのサポート企業・団体から当センターがいただいた一定額の寄付金を児童、生徒が選んだ各団体の割合に分けて寄付するという仕組みがあることです。ふれあいパスポートという具体的なツールの提供による「きっかけ」とこの仕組みによる「継続」

によって、児童、生徒が自ら「自助力」と「共助力」を育みます。

ふれあいボランティア活動感想文の募集は、児童、生徒が自分の活動についての感想文を書くことで、活動を通じて「自助力」や「共助力」が高まり成長していることを自ら確認する機会につながる、という趣旨から実施しております。平成二十四年度は、平成二十四年十一月現在のふれあいパスポート参加校96校を対象に行いました。

応募いただいた感想文には、皆それぞれに、素晴らしい気付きや成長の様子が描かれておりました。そのなかで、大賞はじめ各賞が4名の選考委員（p2参照）によって決定されました。

是非、みなさまには、子どもたちの心の成長の喜びを共有していただきたいと存じます。また、このふれあいボランティア活動感想文集によって、さらに活動の輪が広がって行くことを祈念いたしております。

平成二十五年三月一日

特定非営利活動法人さわやか青少年センター

理事長 有馬 正史

ふれあいボランティアパスポート参加校リスト

（p17参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集をご紹介しています。ダウンロードできます。

(URL: <http://www.ssc-npo.or.jp>)

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数480点

(小学校20校385点、中学校7校59点、高校4校36点)

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】

千葉県栄町立布鎌小学校5年 白石 汐里さん

【特別賞（被災県の学校でのボランティア活動）】

福島県棚倉町立棚倉小学校6年 益子 愛海さん

【小学生賞】（7人）

千葉県栄町立竜角寺台小学校1年 大口 結衣子さん

東京都国分寺市立第七小学校1年 岡田 悠汰さん

東京都杉並区立松庵小学校2年 田中 凜さん

福島県棚倉町立棚倉小学校3年 門馬 瑠花さん

宮城県仙台市立七北田小学校4年 永野 晃靖さん

東京都小平市立学園東小学校5年 米山 みのりさん

静岡県市立金竜小学校6年 藤村 美憂さん

【中学生賞】（5人）

佐賀県嬉野市立嬉野中学校1年 岩津 優治さん

千葉県栄町立栄東中学校1年 竹内 詠美さん

東京都目黒区立第八中学校2年 田治 光将さん

岐阜県関市立小金田中学校3年 伊藤 悠さん

千葉県栄町立栄東中学校3年 竹内 梨乃さん

【高校生賞】（3人）

東京都立練馬高等学校1年 岡田 彩華さん

神奈川県立七里ガ浜高等学校2年 許 冴恵さん

神奈川県立七里ガ浜高等学校2年 松田 夏歩さん

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益財団法人さわやか福祉財団

理事長 堀田 力氏

選考委員

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

早稲田大学文学学術院 教授 増山 均氏

日本教育新聞社 編集局局長 矢吹 正徳氏

◆ふれあいボランティア感想文選考委員長

応募作品から感じたこと

公益財団法人さわやか福祉財団 理事長 堀田力

ボランティア活動は、少年少女のさまざまな人間性をめざまさせ、育てます。「あ、そうなんだ」と新しい発見に驚き、そのことで自分がぐんと成長したことを実感する子どもたち。小学4年生の永野晃靖君は、人に役立つことをして「いつもの力ではなく、何かかくされた力が出るのがすごいです」と、自分に驚いています。

応募していただいた作品には、成長した自分を語るみずみずしい喜びが満ちていました。

ごみ拾いをした小学1年生の大口結衣子さんは、「わたしのころがきれいになる」ことに気付きました。

目の不自由な人を助けるお母さんの姿を見て同2年生の田中凜さんは、ボランティアという言葉の意味を自分で調べ、「まずは今自分にできることをがんばりたい」という気持ちを固めました。

震災ボランティアを見て自分も始め、「みんなが協力すればみんな幸せになれる」と気付いた同3年生の門馬瑠花さんはじめははずかしかったごみ拾いが、人から「えらいね」と声をかけられ、道がきれいになるのを実感するうち、堂々とやるようになり、町が好きになった同5年生の白石汐里さん（活動大賞）。大震災の体験を経て、人を笑顔にするという

ボランティアの意義に気付き、一生続けたいと願うようになった同6年生の益子愛海さん（特別賞）。

人に役立つ喜びが素直に人間的成長に結びついていた小学校時代から、中学、高校時代に入ると、気付きは、さらに深まります。「人の気持ちを思う」ことの大切さ（中1竹内詠実さん）、「責任の取り方」（中3伊藤悠さん）、「日本のホームレス問題」（中3竹内梨乃さん）、「被災地の復興には地道な作業が必要なこと」（高2許冨恵さん）、「地球の生命がつながっていること」（高3松田夏歩さん）などを自覚した少年少女たち。

応募作品はどれも魅力的で甲乙つけがたく、みなさん、頼もしいのひとことでした。これからもおおいに自分をのびし、思い切り幸せな人生を築いて下さい。

◆選考委員

応募いただいた皆さんへ

NPO法人放課後NPOアフタースクール 代表理事 平岩 国泰 皆さん、ありがとうございます。皆さんの感想文の出来栄えは素晴らしかったです。それ以上に様々な活動を通して、ご自身の心が成長したことに意味があったと思います。

ボランティアというのは常に私たちの身の回りにあります。今回書いてくださったのは、特別な活動が多かったです。それ以外にも日常生活の中でお友達を喜ばせる、両親のお手伝いをする、そんな風に相手を気遣うことも素晴らしいことです。

このような支援活動は何と言っても「継続する」ことが重要です。そして継続するためには「楽しむ」ことも大切です。休む時期もあっていいでしょう。でもまたやりたくなくなったら始めればいいのです。「細く長く」続けていくことが大切です。

「人を喜ばせることが、結果的に自分の楽しみになること」は今回皆さんが共通して学ばれたことです。「自分のために、楽しみながら」これからも身近なところからボランティアを継続してほしいと思います。

新しい時代を切り拓く市民・国際人になろう

早稲田大学文学学術院 教授 増山 均

皆さんのボランティア体験の作文を読ませていただき、感心しました。

今回受賞された人たちは勿論のこと、応募された人たちのどの作文にも、ボランティアを通して学んだこと、感じたことが素直に表現されていたと思います。すべてに共通して「どんなに小さなことでも、自分の力を人のため社会のために役立てていくことを通じて人間として成長していること」が示されていました。

学校や地域をきれいにする取り組みは、自分の心をきれいにすることにつながります。困った人やお年寄りを応援することは、自分の力と役割を再発見していく機会です。

21世紀の学びは、①知ることを学ぶ、②為すことを学ぶ、③ともに生きることを学ぶ、④人間として生きることを学ぶ、

という4つのことが必要だといわれています(ユネスコ21世紀教育国際委員会報告書)。

さわやか青少年センターの「ボランティアパスポート」を手がかりにして、皆さんが新しい時代を切り拓く市民・国際人として成長すること応援できれば幸いです。

踏み出す勇氣に、ありがとう

日本教育新聞社 編集局局長 矢吹 正徳

ふれあいボランティアパスポート参加校を対象にした初の「ふれあいボランティア活動感想文」選考が実施されました。ご応募いただいた皆さん、ありがとうございました。皆さんの活動に触れることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

日頃から、このパスポートを活用したさまざまな活動をしている皆さんですが、「感想文」の形とは言え、活動のきっかけから、活動を通しての気付き、活動しているうちに感じられる成長の様子などがとてもよく伝わってきました。

特に、皆さんが生活している身近な地域で、疑問に感じ、何とかしたいと強く意識する姿勢はすばらしいものがあります。また、そこから行動へと一歩踏み出す勇氣、周囲を巻き込み、大きなエネルギーに変えていく活動ぶりに、元気づけられました。

ふれあいボランティアパスポートは高校まで続いています。小学生は中学生になって、中学生は高校生になって、高校生はその先の未来でのさらなる飛躍にも期待しています。

【ふれあいボランティア活動大賞】

私を変えたボランティア活動

千葉県栄町立布鎌小学校5年 白石 汐里

テレビの画面には、ごみ拾いをしている人が映っていた。そばにいた父が急に「汐里はボランティアパスポート、どうしている？」とたずねてきた。そういえば、机の引き出しに入れたっきりだった。忘れていたわけではなかった。どう活用したらいいかまよっていた私は、父に相談してみた。

「ボランティア活動ってどうすればいいの？」

「ボランティア活動は決まりなんてないから、自分がしたいことをやりなさい。」

と、父の返事は冷たかった。だから、自分で考えてみることにした。特別なことは思いつかなかった。そして、「ごみ拾いをしてみよう」と心に決め、行動にうつしてみることにした。

私の家から学校まで約二キロの道、休日に始めてみたところ、意外にごみが多く捨てられていることに気づいた。普段何気なく歩いている道。どうして菓子のふくろ、ペットボトル、かんごみが落ちているのか不思議だったし、この道にごみを捨てる人の気持ち私には理解できなかった。

私は、自分の歩く道のごみを拾い続けた。時々声をかけ

てくれる人も出てきた。見ず知らずの人に、「えらいね」と声をかけられるとちよっと恥ずかしくて、小声で「はい」とうなずくのが精いっぱいだった。そして、たくさん拾ったごみを見るとなんだか、すがすがしい気持ちになった。あの道がきれいになり、あの道を歩く人が気持ちよく歩いてくれるのではないかと考えるようになった。

だから、ごみを拾う活動も、堂々とやるようになったし、そこで生まれる人との出会いも待ちどおしいものになった。

たった一人で始めた活動だったが、多くの人と知り合うことができたと同時に、私は、いつそうこの町が好きになっていることに気づいた。次は、友達をさそってみようと思う。

【特別賞】

自分ができたこと

福島県白川郡棚倉町立棚倉小学校6年 益子 愛海

わたしは、学校でふれあいボランティアカードをもらいました。わたしは、そのカードをもらうと、ボランティアをたくさんして、カードに記録します。でも、わたしは、そんなことじゃだめだと思いました。

その理由は、わたしが、ボランティアカードを、もらった時だけ、ボランティアをするからです。ボランティアは、いつも続けないといけないものなのに続けないでいたからです。

震災をあげわって、ボランティアのことをもっと分かった

気がします。それは、ボランティアは、人の役に立つことだ
と思っていました。でも、わたしはもう一つ気づきました。
それは、人を助けてあげることと、人を笑顔にすることだと
思いました。

わたしがした、ボランティアは、家の人の手伝いや、人に
親切にしたり、あいさつをしたりしたことです。

震災の後で、わたしは、ボランティアを意しきせず、自分
から進んで取り組む事ができました。

ボランティアというと、どんなことをしていいのかとか、
これは、ボランティアなのかと、分からない時があります。
でも、ボランティアは、そう思わなくても、自分から進んで
やれば、ボランティアだと思いました。

ボランティアをすると、必ずその人にこういわれます。そ
の言葉は、

「ありがとう。本当に助かったよ。」です。

わたしが、ボランティアを続けようと思うのは、人にこの
言葉をかけられたからです。わたしは、この言葉をわすれず
にボランティアを続けたいです。もし、人になにも言われな
くても、自分が役に立ったと思ったらそれでいいです。

わたしは、一生ボランティアを続けたいです。



【小学生賞】

たのしかったなボランティア

千葉県栄町立竜角寺台小学校1年 大口 結衣子

きょうは、ボランティアかつどうの日です。

わたしは、どこにいくのか、ぜんぜんわかりませんでした。
あるいているときは、しんぞうがドキドキしていました。
でも、そのうちに、ドキドキが、しなくなりました。ともだ
ちと、たのしくあるいていたら、ふあんがなくなつたからで
す。

わたしのかつどうばしよについたら、ごみがいっぱいあつ
たので、びっくりしました。

あめのふくろや、のりのふくろもありました。

中には、犬のくびわもありました。

おにいさんとおねさんが、ごみをわけてくださいと、いつ
たのでわたしはかんがえてだしました。

とてもむずかしかったです。

ボランティアをするとまわりがきれいになるのですね
かったです。

きれいにするとたのしいです。

ともだちと、いつしよにひろうと、とてもたのしいし、う
れしいです。

からだが、かるくなりました。そのうえ、こころもかるく
なりました。

ボランティアをしていくと、まわりがきれいになるだけ

はなく、わたしのころもきれいになることがわかりました。たくさんの人と、ボランティアをしていくと、たくさん人のころがきれいになります。

ボランティアのおかげで、そのことがわかりました。

らい年も、そのつぎの年もずっとつづけていきたいです。そして、みんなにこのきもちをひろめていきたいです。

わたしのだいすきなさかえまちが、もつときれいになりますようにもつとねがっています。たのしかったな、わたしのボランティア。

ふれあいボランティア。パスポート

東京都国分寺市立第七小学校1年 岡田 悠汰

ぼくは、マルイで、しらないおばあさんの、カゴを、カゴのケースにいれてあげました。おばあさんは、「ありがとう。」といってくれました。

ぼくは、いいことしたなあ、とおもいました。いわれてうれしかったです。これからもボランティアをつづけたいです。こんどは、たおれているじてん車をおこしたり、たのしくボランティアをやってみようかなことをしたいです。

上のがくねんになったらきつとできるとおもいます。がんばります。



だれかのためにできること

東京都杉並区立松庵小学校2年 田中 凜

家の近くのおうだんほどうで、白いつえをもった女の人が赤しんごうをまっています。わたしも、一しよにおかあさんとおとうとをほいくえんにむかえにいくところでした。しんごうが青にかわったときおかあさんが

「青になりましたよ」

と声をかけてました。わたしがどうして声をかけたのか聞く

「白いつえをもっている人は、目がふ自由なんだよ、こういふことをボランティア、というんだよ。」

と教えてくれました。わたしは、そのときボランティアってよくわからなかったのですらべてみました。

ボランティアとはめいれいやぎむからではなく、人のやくに立ちたいと思うきもちだということがわかりました。ニュースでよくひさいちに行つてごはんをつくつてあげたりしている人を見たことがあります。

私は、学校でふれあいボランティアカードをつかつて、ぐちやぐちやになっていたぞうきをきれいにしたり、いすをもとの場しよにもどしたりしました。そのときわたしはクラスがきれいになってきもちよかったです。

手がとどかなくてこまっている人のかわりにきつぷのボタンをおしてあげたり、しんごうきのボタンの場しよがわからなくてこまっている人のかわりに、しんごうきのおしボタンをおしてあげたりしたいです。しょうらいは、もうどう犬

ししくボランティアをやりたいなどかぞくで話しています。まずは、ゆび一本でできるボランティアや今、自分にできることをがんばりたいです。

ボランティアをしてみたこと

福島県棚倉町立棚倉小学校3年 門馬 瑠花

七月に全校生でボランティアについて勉強しました。その時、わたしは、東日本大しんさいのことを思い出しました。それは、ニュースで、こまっている人たちのために食べものをくばっているボランティアの人たちのすがたです。このえいぞうから、わたしは自分にできることはないのかなあと、考えました。そこで、ある所のぼ金活動にさんかしました。さんかしてわたしは、少しでもこまっている人くるしんでいる人にやくだててほしいなという気もちになりました。また、あいさつを元気にして周りの人を明るいきもちにしたり、人に親切にすることもじっ行しました。その時にはもう、ボランティアパスポートがあつたので、たくさんボランティアをしました。家の人の手伝いもしました。お母さんやおばあちゃんがとてよるこんでくれたので、わたしもうれしくてもつとお手伝いをしようと思いました。

ボランティアをしてわたしが気づいたことは、自分がだれかのためにがんばれば、まわりの人たちがよるこんでくれるということでした。そして、ボランティアは一人ではなく、みんなのできることもあると思うのです。しんさいなど悲しい出来事がおきたときも、どんなにつらくてもみんなが協力を

していけば、みんな幸せになれるのではないかと考えました。つまり、一つ一つの力が大きな力になるということです。一人一人が思いやりの心をもつてだれかのために力をかせば、日本中、そして世界中の人々がえがおになれると思えました。わたしはボランティアをしてみだできないこともあるけれど、もつとボランティア活動に取り組んでいきたいです。

ボランティア活動をして

宮城県仙台市立七北田小学校4年 永野 晃靖

ぼくは、四年生になって「おはようデー」に参加するようになりました。三年生の時は外遊びしか考えずに参加しませんでした。初めてみんなであいさつをしてみると何だか気持ちよくなります。(ボランティアって楽しいな。)ぼくはいろいろなことをやってみようと思いました。

二年生の給食ワゴンを運びました。当番でないときも運ぶことにしました。一年生の給食の片付けも手伝いました。先生が

「ありがとう、さすが四年生だね。」

と声をかけてくれました。地域では、お年寄りの荷物を持ってあげました。重たかったけど、がんばろうと思つたら力がわいてきました。道を教えました。ぼくが知つているところだったので、付いていってあげることにしました。地域の草取りも手伝いました。町内会長さんといっしょにがんばつてやりました。軍手がなかったため、手が切れたりしていたかったです。自分ができることを見つけてやっていたら、ボラ

ンティアの数が四十二回になりました。六十回以上やること
が、今のぼくの目標です。

ぼくは、ボランティアをして人の力になれるのはすごくいいことだと思います。いつもの力ではなく、何かかくされた力が出るのがすごいです。これからもボランティアを続けて
いって、地域や学校を元気にしたいと思います。

みんなの気持ち

東京都小平市立学園東小学校5年 米山 みのり

夏休みの宿題で、ふれあいボランティアという宿題がでた。そのとき私がすぐに思いついたのがこの町をきれいにすること、みんなの力があれば、できると私は思いつきました。それで、私は町をどうしたらきれいにできるのか、どこがきれいなのかを私は考えました。それで私が思いついたのは、「ゴミを拾う」ということです。私は、一日あけて、ゴミをさがしました。それでもぜんぜん拾っても、拾ってもなくなりませんでした。その理由を私は考えわかったのが、人が道にゴミを捨ててるのが、多いからだとかわり、わたしもまえ、自転車にのっている人がゴミをおとして、「あの」といったころには、すがたがありませんでした。そのように捨てている人を見た人は、いやだろうなあと思いました。私も見えない気持ちになりました。そして私が決めたのは、声かけです。その次の日、またゴミを捨てた人がいて、私はそれをもって、「ポイ捨ては、ダメですよ。」と言ったら「ごめんささい。えらいね。」と言われて私はうれしく思いつつとやるき

がでてきました。その次は、ならいごとがありかよっている
と中、きのうのおじいさんに会い「こんにちは」といおうと
思ったら、そのおじいさんが、ゴミを拾ってるのを見た時、
うれしすぎて「ありがとうございます」大きい声で言っ
てしまいました。それからおじいさんがにっこりわらい、手
をふっていました。それから私は、ゴミを拾うことが、楽し
くなってきて、おじいさんに、「一ぼ成長したね。」と言わ
れて、私もサイコーの一日で、自分でもせいちょうしたか
なと思いました。その時、ゴミを拾うだけで、出会えたり
楽しくなれることもあることを私も初めて、知りました。
みなさんにもこの気持ちを教えられたらなあ
と強く思うようになりました。

「ボランティア」と私

岐阜県関市立金竜小学校6年 藤村 美憂

私は、今までボランティア活動にたくさん参加してきま
した。その中でも、私が一番心に残っているボランティアは「ふ
れあいいききサロン」という行事です。

私は、この行事にボランティアとして参加しました。受付
が始まると、多くのお年寄りの方が、いらっしやいました。
そんなお年寄りの方の中に一人のおばあさんはいらっしや
いました。そのおばあさんは雨の中、鼻にチューブをつけて、
呼吸器を引っ張って一人でやってみえたのです。私は、その
姿を見て、大丈夫かな、楽しめるかな、と心配になってしま
いましたが、これだけが生きがいのようなものだ、と嬉しそ

うに言うおばあさんを見て、そんな心配はいらなかったと思
いました。サロンが始まってから、そのおばあさんを見てい
ると、本当にすてきな笑顔でゲームをやってみえて、私も嬉
しくなりました。私は、そんなおばあさんの生きがいに参加
できることを、とても嬉しく思いました。

その日から私は、ボランティアに対する答えが変わりまし
た。今までは友達にさそわれて、流れでやるだけだったので
すが、今、私がボランティアで大切にしていることは「笑顔」
です。もちろん自分もそうですが、相手への気持ちのもちか
たで相手も笑顔がこぼれます。その笑顔が人と人との心をつ
なぎます。もう一つは「会話」です。一人一人とのコミュニ
ケーションをしっかりとると、ボランティア活動がより温か
く充実したものになります。

私が思うボランティアは、ただ働くだけでなく、たくさん
の人とふれあえる交流の輪。私とボランティアは、切っても
切りはせない、大切な輪なのです。そのことに気付かせて
くれた、「ふれあいいいきサロン」に感謝しています。



【中学生賞】

ボランティア活動を体験して

佐賀県嬉野市立嬉野中学校1年 岩津 優治

みなさん、ボランティア活動をしたことはありませんか？ぼ
くは、今年の夏にボランティア活動に参加しました。それは、
ふつうの一日でした。

ぼくは、いつものようにきがえて家を出ると、小学校三年
生くらいの人から、お年よりの人達がボランティア活動をし
ていました。地域の活動だったので僕も参加しました。

「ボランティア活動って楽しいね。」

とつぜん、お年よりの人から声をかけられました。ぼくは、
「世の中には変わった人がいるもんだな。」

くらいにしかおもっていませんでしたが、そのお年よりの人
は、本当に楽しそうにボランティア活動をしていました。ぼ
くは興味がわいてきて、なにが楽しいのかをさがしました。
そして見つけました。お年よりの人が、

「ボランティア活動って楽しいね。」

と言った理由を。

それは、ボランティア活動を始める前と後の「風景」です。
ゴミはなくなり、雑草も、ほとんどなくなつて、とても何回
も見た風景とは思えませんでした。

「これこそが、あのお年よりの人が言っていた、楽しいの
意味だったんだ。」

そう思いました。変わっていたのは、風景だけではありませ

んでした。もう一つ変わっていたものの、それは、ぼくの心で
す。ボランティア活動の中でぼくは、とてもすなおな気持ち
になることができました。ボランティア活動は、された方が
気持ちがよくなるだけでなく、する方も気持ちよくなれるこ
とがわかりました。

ぼくは、このボランティア活動をとおして、すなおな気持ち
を持つ大切さを学びました。みなさんもボランティア活動
をしてみて下さい。きっと気持ち良くなれます。

ふれあいボランティア活動を通じての私の成長

千葉県栄町立栄東中学校1年 竹内 詠美

今日の放課後はボランティアクラブの打合せがあった。ボ
ランティアクラブとは今年の夏頃に出来た新しい部活だ。活
動内容は栄町を良くするために、お花を届けたり、町内のお
祭りに参加するなどだ。

いつもはたいくつなこの打ち合わせも今回はいつもと違
った。わくわくしていた。たぶんあの日からだと思った。

その日は日曜日で今日のボランティア活動には行きた
くなかった。今日は老人におはぎとメッセージは届けるらしい。

「ピーン ポーン」
チャイムを鳴らす。

すると、私のおばあちゃんみたいに温かくてかわいらしく
笑ったおばあちゃんがでてきた。

「わざわざありがと。楽しみにしていたよ。」
「…はい。」

あまり良い返事はできなかったけど内心は不思議な気持ち
になっていた。

自分は嫌なのに相手は喜んでいて。そんな気持ちでいいの
か。今の気持ちはボランティアではないのではないか。そう
思った。

そして私は変わった。ボランティアを通じてボランティア
の意味を知ることができた。

「お元気ですか。」「不便な点はありませんか。」「ありがと
うございました。」と自然に言葉にすることができた。

今の自分でできること。人の気持ちを思うこと。それを目
指すことで、ボランティアをやっていると思う。

心を磨くボランティア

東京都目黒区立第八中学校2年 田治 光将

北海道では初雪が観測された寒空の11月18日、僕は
「日本を美しくする会」のご協力のもと開催された校内トイ
レ掃除のボランティアに参加した。決して積極的な気持ちで
参加した訳ではなく、生徒会役員としての使命というか、義
務感からというのが正直な気持ちだった。実際、トイレ掃除
は汚れるし臭いし何よりその日は寒くて初めはとても憂う
つな気分だった。

掃除はトイレの便器を一つずつ丁寧にスポンジを使って
手磨きするというもので、僕が今までしてきたトイレ掃除と
はまるで違っていた。水はとても冷たく素手で便器を磨くこ
とも抵抗があったが、どちらにも次第に慣れていき時間を

かけて床も壁も隅から隅まで磨いた。初めは半ば嫌々適当に掃除をしていた僕が、気付けば寒さも感じずピカピカになっていくトイレが嬉しくてただただ必死に磨いていた。体は汗ばむ程、温かくなっていた。掃除がこれほど汗をかき疲れるものとは思ってもいなかったし、何より結構楽しかった。

こんな風に気持ちが変わっていった自分にも、こんなにも一生懸命に掃除をしている自分にもとても驚いていた。全ては「日本を美しくする会」の方々が、色々な掃除のやり方を終始優しく丁寧に教えてくださったおかげではないかと思う。掃除のあとはボランティアの方々が作ってくださったカレーをみんなで食べた。汗をかいた後のカレーは格別だった。翌日、登校すると校内どここのトイレも全てがピカピカで、なんだか清々しい気持ちと誇らしい気持ちとが自分の中に感じられて、トイレ掃除ボランティアに参加して本当に良かったと心から思えた。そして、友達や先生方から「ありがとう」と言われて自分が何かや誰かの役に立てたことがとても嬉しかった。ボランティアは心をピカピカに磨いてくれるものだと改めて感じた1日だった。

ボランティアの利益

岐阜県関市立小金田中学校3年 伊藤 悠

「あなたは損をしています！」

私はボランティアをしない人にこう言いたいのです。ボランティアは自分の利益を考えずに人の役に立つ活動をするのですが、本当に利益が無いわけではありません。私が今ま

で体験してきたことを見てもそう思います。

まず私がボランティアをはじめた理由は正直ありません。ただ暇だから行ってみよう：：という思いではじめました。でもそこで学べることの多さに驚き、自分が大人になるまでいろいろなことを体験しておこうと思つて今でも続けています。

私が体験してきた中で一番学べたことは、あいさつの大切さと責任感です。あいさつは、どんな人でもコミュニケーションをとることができるし、相手を笑顔にすることができません。ボランティアで出会う人にあいさつすることを心がけていたら、いつのまにかすれちがう人誰もにあいさつするようになっていました。責任感というのは、ボランティアではひとつの仕事をポンとまかせられ、終わるまでその仕事にかかわらなければいけません。なので、知らない人だからと遠慮したりつまらなくなつた、面倒になつたからといってやめることはできません。こういったおかげで私は責任の重そうな仕事もやりがいがあると思えるようになりました。

ボランティアは人のためになり自分のためにもなります。これ以上得なことはありません。これがボランティアで出せる利益です。

私は来年高校生になります。行動範囲が増えるのもっとボランティアでたくさんの人と出会い、役に立てる活動をしていきたいです。もう一度いいです。ボランティアをしないことは損ですよ！

ふれあいボランティア活動を通じての私の感想

千葉県栄町立栄東中学校3年 竹内 梨乃

私は、中二の夏休みに、父と一緒に、東京にある大きな公園で不労者の方々に対するボランティアに参加した。「もあい」というボランティア団体で、不労者の人にごはんを配ったり夜回りをするものだった。

自分の身の周りでは、ほとんど不労者を見たことがなかった。テレビや新聞などでその存在を知ってはいたが、心の中で、不労者≠不潔、というイメージを持っていた。参加した理由は興味本位だが、その興味の中の半分は好奇心からだったと思う。しかし、実際に活動をしていく中で、映像や文章だけでは心に届かなかった真実がたくさんあった。

私は「もあい」の方々とチームを組んで夕方頃から、大きなたらいの中に入っているたきこみごはんをお皿に盛った。何百という皿がテーブルの上に積み上げられた。不労者の方々は暑いのに、配り開始の五時間前からいから並んでいた。その数は百人をこえていた。配る時間になると、不労者の方は勢いよくかけよって来て、ごはんを持っていった。中には何度も並んでタッパにつめている人もいた。私も食べたが、味はとても薄く食べられなかった。

ボランティアを終えて公園を出ると、東京の町はとても明るく、大きなビルだらけだった。一歩外に出ればまるで別の国だった。私は今まで、他の国に比べれば、日本は先進国だし、十分豊かだと思っていた。でも、その日初めて社会の裏を見て、まだ全ての人が幸せではないと知った。不労者の方

に対する悪いイメージはなくなり、代わりに私に社会を変えていく必要があることを教えてくれた。

知らないのなら知ればいい。ボランティアを通して、若い人ほど学ぶものは大きく、変えていく力もあると感じた。



【高校生賞】

ボランティア活動を通じて学んだこと

東京都立練馬高等学校1年 岡田 彩華

私が行ったボランティア活動は練馬区内の福祉作業所のお祭りのお手伝いや練馬高校周辺の防災マップ作りです。

私は中学生の頃からボランティア活動に興味を持っていて地域の活動に積極的に参加してきました。高校へ入学してボランティア同好会へ入部し、練馬区の福祉作業所を周っていくうちに自分に必要な事や大切さを見つける事ができました。

まず自分に必要な事というのは笑顔や優しさだと思いました。福祉作業所で仕事をしている方々は誰にでも笑顔で優しく教えてくれる部分がたくさんありました。私が笑顔でいれば皆さんと早く打ち解けることが出来るようになりお祭りがもっと楽しい行事になるということを学ばさせていただきました。

この事を学んで違う作業所のお手伝いをさせていたのだ時、私は積極的に話しかけにいき、笑顔で仲良く仕事をすることが出来ました。そのおかげか、お祭りも盛り上がりを見せて大成功で終了しました。

福祉作業所のお手伝いをしている時は、嫌な事や悲しい事があっても周りの方々のおかげで元気を貰い、毎回お手伝いに行くのが楽しみで仕方がありません。自分も元気を与えられるよう頑張りたいと思います。

練馬高校の周辺の防災マップ作りでは、夏休みに集まれる部員や卒業生などが集まって消火器や火事の時に役立つ道具を二つのグループに分かれて探し、見つけたら写真を撮るという活動を約一週間に渡り、活動しました。

夏の暑い中、とても大変でしたが、先輩達と話す良い機会になりました。

ボランティア活動は地域の方々と交流を深める事が出来る良い機会でたくさんの良い事を学べる良い機会でもあるということを知りました。

これからも積極的に参加し、交流を深める事が出来れば良いなと思いました。

東北での4日間

神奈川県立七里が浜高等学校2年 許 呀恵

2012.7.26-29 私たちは農業復興支援のボランティアバスで宮城県登米市に出発しました。

初日は移動に費やし、作業はせずに4日間を共にするメンバーとの絆を深めました。2日目朝、さあ今日から頑張ろう！という気持ちで楽しく、おいしい朝食をいただきました。作業現場に実際に着してみると畑の石や瓦礫を拾うという、意外にも簡単な仕事でした。お昼を挟み、午前・午後と同じ作業をしました。午後の作業が終わり、帰り際に寄った場所は今となっては壁さえもなくなってしまう防災対策庁です。地域のみんなを守るため命を落とされた方々の、勇気、愛に心を打たれました。

3日目、朝、「今日で作業最後だから頑張ろう！」とみんなで声を掛け合いながら出発しました。作業は現地の方とともに進めました。現地の方が教えてくれた被災当時のお話は、どのテレビ番組、新聞、ニュースで入手した情報よりもはるかにリアルで生々しいものでした。普通に自分が生活してて使う物のほとんどがなくなってしまう。そんな状況は聞いてもイメージすらできませんでした。

4日目、最終日の朝、少し遅めの朝食から「今日で帰るんだ…」という切ない気持ちになりました。午前中は現地の方がまるで宮城の観光案内をするかのように被災当時の状況、建物、また人々について教えてくれました。その話のすべてがまたイメージもできないようなものでしたがその中でも私が今でも鮮明に覚えているのは、高校生が人の遺体（津波に流されてきたもので、痛みがひどく、人の形を留めていない遺体もあったらしい…）を収集していたという事実です。あの時その子達はどいういう気持ちだったんだろう、今はどういう心境なんだろうと考えると胸が痛くなります。

お話を聞いた後、私たちは〈復興市〉という名のお祭りに連れて行ってもらいました。被災があつたとは思えないほどの明るさ、暖かさに登米市の皆さんの強さを感じました。お祭りではボランティアをしにきたということで、沢山の東北産のお肉をいただき、バーベキューをしました。気候は梅雨明けという事でとても暑かったですが、ステージや出店などの見物が沢山ありとても楽しかったです。

このボランティアのプログラムすべてを終えて私は、もっと、

現地の人たちは何が本当に必要なのか、何を優先的に私たちはやればいいのかというのを知りたいと思いました。今回身をもって体験した事を次に活かし、正確な情報を基にもっと活動していきたいと思いました。地道な作業の繰り返しは確実に復興を進める、という現地の方の言葉を信じてこれからも手伝わせてもらいたいと思います。

手を取り合って生きる

神奈川県立七里ガ浜高等学校 2年 松田 夏歩

6匹の「聴導犬」に出会った。皆が雑種で、大きさは小型犬から大型犬まで様々だ。場所は、「聴導犬育成の会」。私はこの場所で3日間、ボランティア活動をした。

彼らは私たちにとてもなついてくれた。目を輝かせ、しつぽを思いきり振り、そばにいてくれた。私は心がほんわか温まった。彼らは人間が大好きなのである。彼らのその想いのおかげで、人と聴導犬は心を通わせることができる。私はそんな彼らが大好きになった。

訓練では、身近な自転車のベル、アラーム、チャイムなどの音を学んでいた。地道な訓練を続けることにより、耳の不自由な方たちや、一人暮らしのお年寄りの方たちに音を運ぶことができるのである。彼らとユーザーは、生きるために欠かせない存在、つまり、「人生のパートナー」になれるのだ。

聴導犬は、盲導犬や介助犬とは違い、ユーザーの命令で働く犬ではない。彼ら自身が音を聞き分けて、自分で考え、伝

える力が必要なのである。その力を養うため、彼らは毎日、懸命に訓練に取り組んでいる。知識を得ようと努力する彼らの姿を見て、私も見習わねばならないと感じた。

私は今回の体験で、どんな生き物も1人でなど絶対に生きていけないということを実感した。人間は聴導犬の訓練や世話をして、聴導犬は人間を支えてくれる。誰しもが、周りの助けがないと前には進めない。立ち止まって、振り返ることしかない。だが、進む気になれば、どんな道も切り開ける。最初から物事を諦める必要なんて、どこにもないのだ。周りの協力が必要なら、声をかければいい。お互いに、助け合える存在になればいい。だから、地球にはたくさん生き物がいるのだと思う。手を取り合い、助け合って生きるために。たくさんさんの生命と心が絡みあうこの世界で、私は今日も、精一杯生きていく。



平成24年度ふれあいボランティアパスポート参加校(平成25年2月18日現在)

県	No.	フレンズ	参加校
青森県	1		青森市立三内西小学校
岩手県	2		盛岡市立月が丘小学校
	3		盛岡市立厨川中学校PTA
宮城県	4		仙台市立七北田小学校
福島県	5	教育委員会 棚倉町	棚倉町立近津小学校
	6		棚倉町立社川小学校
	7		棚倉町立高野小学校
	8		棚倉町立棚倉小学校
	9		棚倉町立山岡小学校
	10		棚倉町立棚倉中学校
茨城県	11		水戸市立河和田小学校
	12		阿見町立阿見小学校
埼玉県	13		茨城県立霞ヶ浦壘学校
	14		白岡町立篠津中学校
千葉県	15	栄町教育委員会	栄町立安食小学校
	16		栄町立北辺田小学校
	17		栄町立酒直小学校
	18		栄町立布鎌小学校
	19		栄町立安食台小学校
	20		栄町立竜角寺台小学校
	21		栄町立栄中学校
	22		栄町立栄東中学校
	23		
東京都	24		港区立青山中学校
	25	○	文京区立第八中学校
	26		品川区立小中一貫校日野学園
	27		品川区立荏原第五中学校
	28		目黒区立中目黒小学校
	29		目黒区立上目黒小学校
	30		目黒区立第八中学校
	31		目黒区立目黒中央中学校
	32		杉並区立松庵小学校
	33		板橋区立天津わかしお学校
	34		練馬区立三原台中学校
	35		八王子市立宮上中学校
	36		昭島市立つじヶ丘南小学校
	37		町田市立三輪小学校
	38		小平市立小平第六小学校
	39		小平市立小平第七小学校
	40		小平市立小平第八小学校
	41		小平市立小平第十四小学校
	42		小平市立学園東小学校
	43		小平市立小平第四中学校
	44		小平市立花小金井南中学校
	45		国分寺市立第七小学校
	46		東大和市立第三中学校
	47		武蔵村山市立第一中学校
	48		武蔵村山市立第四中学校
	49		武蔵村山市立第五中学校
50		武蔵村山市立小中一貫校村山学園	
51		東京都立芦花高等学校	
52		東京都立練馬高等学校	
53		東京都立五日市高等学校	

県	No.	フレンズ	参加校	
神奈川県	54		横浜市立新井中学校	
	55		横浜市立岡村小学校	
	56		横浜市立山王台小学校	
	57		横浜市立日限山小学校	
	58		横浜市立つじが丘小学校	
	59		茅ヶ崎市立鶴が台小学校	
60	○	茅ヶ崎市立松浪中学校		
61		神奈川県寒川町立寒川中学校		
62		神奈川県立七里万浜高等学校		
新潟県	63	○	柏崎市立第二中学校	
岐阜県	64	○	関市立金亀小学校	
	65	○	関市立小金田中学校	
静岡県	66		袋井市立袋井南中学校	
	67		一宮市立葉栗中学校	
愛知県	68		一宮市立西成中学校	
	69		一宮市立尾西第二中学校	
奈良県	70		生駒市立光明中学校	
高知県	71		高知市立江ノ口小学校	
	72		高知市立一宮小学校	
佐賀県	73		高知県立高知東高等学校	
	74		伊万里市立南波多小学校	
	75		武雄市立北方小学校	
	76		嬉野市立久間小学校	
	77		嬉野市立塩田小学校	
	78		嬉野市立嬉野小学校	
	79		嬉野市立轟小学校	
	80		嬉野市立大野原小学校	
	81		嬉野市立吉田小学校	
	82		嬉野市立嬉野中学校	
	83		嬉野市立大野原中学校	
	神奈川県	84	○	神崎市立神崎小学校
		85		神崎市立西郷小学校
86		神崎市立背振小学校		
87		神崎市立千代田西部小学校		
88		神崎市立千代田中部小学校		
89		神崎市立千代田東部小学校		
90		神崎市立仁比山小学校		
91		神崎市立神崎中学校		
92		神崎市立背振中学校		
93		神崎市立千代田中学校		
長崎県	94		平戸市立平戸小学校	
鹿児島県	95		南九州市立中福良小学校	
	96		鹿児島県立川辺高等学校	

参加児童・生徒数
 (小中高等学校95校・1団体)
 28,058人
 ふれあいボランティアパスポート
 (配布数) 33,254冊

※フレンズ：独自にボランティアパスポートを作成、使用し、寄付活動に参加の学校

公益財団法人さわやか福祉財団委託事業 後援：日本教育新聞社

平成24年度ふれあいボランティア活動感想文集
平成25年3月1日発行

特定非営利活動法人さわやか青少年センター
105-0011 東京都港区芝公園 2-6-8 日本女子会館7階
特定非営利活動法人さわやか青少年センター分室

TEL：03-6809-2795 FAX：03-6809-2796

URL：<http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail：info@ssc-npo.or.jp